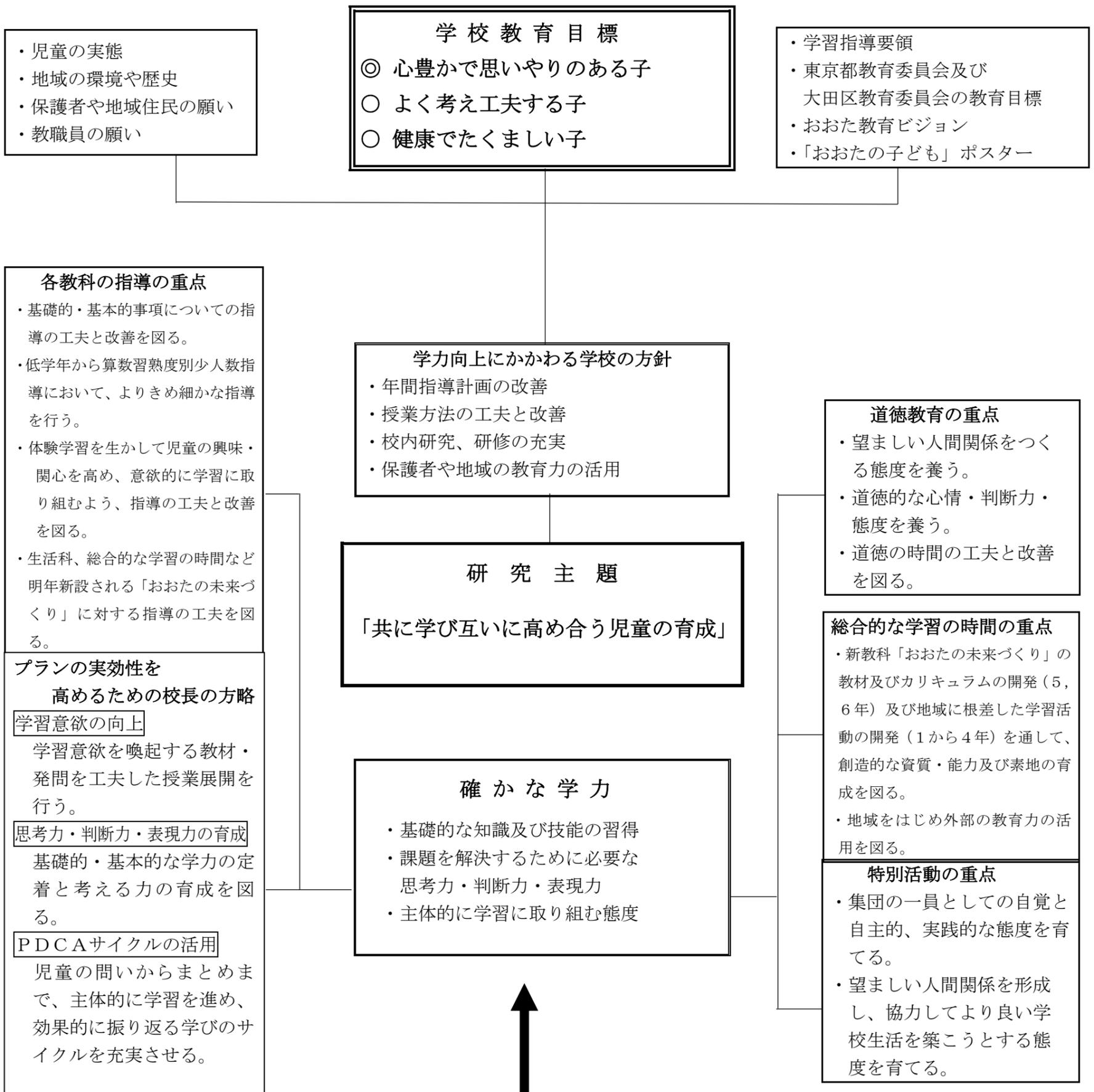


令和七年度 馬込第二小学校 学力の向上を図るための全体計画



授業改善に向けての取り組み				
指導方法の工夫	教育課程上の工夫	校内研究の取り組み	評価の工夫	家庭・地域との連携
<ul style="list-style-type: none"> ・国語では「書くこと」「読むこと」について言葉による見方・考え方を育てる指導の工夫をすすめる。 ・算数では、基礎的・基本的事項の定着を図りながら、既習事項を大切にする（見通し・思/判/表を育む、主体的・対話的な深い学び）指導内容の工夫をすすめる。 ・生活科、総合的な学習の時間など「おおたの未来づくり」に対する基礎研究の確立を図る。（本年度、研究教科） ・年間を通して算数補習教室を実施。学習指導講師を活用。 ・ICT機器の活用。（ドリルパークなどを学習内容の定着を図る） 	<ul style="list-style-type: none"> ・馬二タイム（朝学習）を活用し、学級の実態に合わせて漢字や計算の学習を行う。 ・3～6年の週一回程度の放課後算数補習教室を実施し、児童の学力向上を図る。 ・OJT研修を実施し、指導力向上を図る。 ・特別支援学級と通常の学級との交流を深めるとともに、特別支援教育の充実を図るための研修を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新教科「おおたの未来づくり」の実施を受けて、本校のカリキュラムを構築し、実践する。また、第1学年から第4学年については、第5・6学年で行う地域創生につなげていくために、地域に根差した学習活動を開発していく。 ・「おおたの未来づくり」で育てたい創造的な資質・能力及びその素地について、全教職員で理解を深め、各学年でどのように育成するかを計画を立て、実践し、提案する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・評価委員会を設置することで、授業計画の中の評価の位置付けを明確にして1～6年の各学年の評価基準をまとめた。評価内容を精査し、教職員間で共通理解を図り、全体として評価基準の活用をすすめることで、毎年の指導計画や児童の実態に即した評価内容とした。 ・通知表を前期・後期の2期制することで長期間を通じた評価を可能にした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者や地域住民をはじめとする外部の教育力を活用することで、本校教育活動の理解を図り、学校運営協議会を通して生かしていく。 ・学校支援地域本部（スクールサポート馬二）を活用することで、地域とのつながりを深め、本校の教育活動の理解を更に推進する。 ・生活科、総合的な学習の時間など「おおたの未来づくり」に関係する地域交流を推進する。